

半導体漫遊記

湯之上隆

(329)

四日市工場と北上工場でNANDフラッシュメモリを共同開発・生産しているキオクシアと米ウエスタンデジタル(WD)が進めていた経営統合は、キオクシア筆頭株主の米ベインキャピタルに間接出資しているSK

hyunixの賛同を得られなかったため不成立となった。本稿では、この経営統合の利害関係者がどのような思惑だったかを論じてみたい。

まずキオクシア(19.6%)とWD(14.7%)は、この経営統合が実現すると両者合計のNANDのシェアが34.4%となり、1位

のSamsung(31%)を抜く(カッコ内は2023年第2四半期のNAND売上高シェア)。つまり、キオクシアとWDはこの

の経営統合により、世界最大のNANDメーカーになれる。加えて、この経営統合に際して3メガ銀と日本政策投資銀行が1.9兆円を融資することになっていった。その内訳は1.5兆円が既存融資の借り換えで、

4千億円が運転資金である。キオクシアもWDも22年後半からの半導体不況で赤字を計上し業績が悪化していたため、経営統合を切っかけとした銀行の融資が必要だったと言えるだろう(統合不成立でこの融資はどうなったのか?)。次に、この経営統合

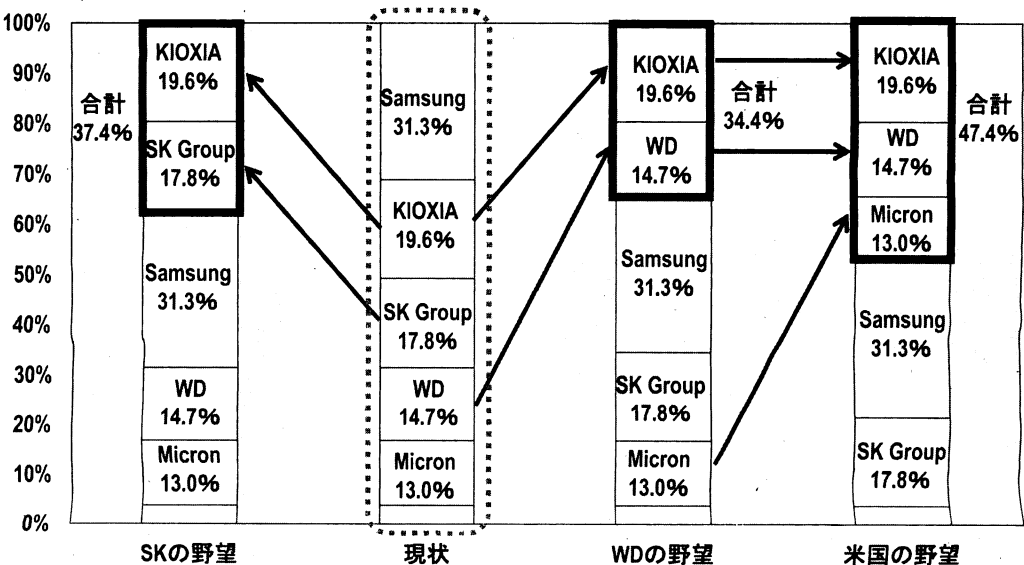
キオクシア・WD統合不成立 SKの野望と米国の野望

特別目的会社Pangeaが東芝メモリを買収することになったが、SK hyunixは3950億円をベインキャピタルに間接出資している。このような行動から分かることは、SK hyunix(17.8%)の本音はキオクシア(19.6%)を丸ご

に反対したSK hyunixの思惑はどのようなものだったのか。SK hyunixは17年に東芝が、東芝メモリ(現キオクシア)を売却する際、2度行われた入札に応札している。最終的にベインキャピタルを中心とする

hyunixとして、hyunixと買収しなかったということだ。もし、この買収が実現すればSK hyunixのNANDのシェアは37.4%となり、1位のSamsungを凌駕することになる。このような野望を持っているSK hyunixとして

ラム)」。もしかしたら米国は、キオクシア+WD+Micronを統合する野望を持っているのではないだろうか? もしこの米国3社連合が実現したら、合計シェアは47.4%になる。これは1位のSamsungを16%上回るだけではなく、SamsungとSK hyunixの合計シェア49.1%にも匹敵する規模となる。



SK Group、WD、米国の野望(NANDのシェアは2023年Q2時点)

(微細加工研究所・所長)も、メモリビジネスにおいては、規模がものをいう。従って、米国がこのようなことを考えていても不思議ではないような気がする。